

令和 2 年度の堅果類の豊凶状況と出没予測について

1 堅果類の豊凶状況

- ・高標高域（奥山）での主要な餌となるブナは凶作、ミズナラは不作、低標高域（里山）のコナラも不作であり、食物が乏しい状況にある。
- ・過去に大量出没が発生した年と同様の餌条件にある。

○高標高域（奥山）

- ・ブナ：県全体の作柄は凶作（県内すべての地点において凶作）
- ・ミズナラ：県全体の作柄は不作（並作が 2 地点あったが、ほとんどの地点で不作）

○低標高域（里山）

- ・コナラ：県全体の作柄は不作（嶺南の 1 地点で並作をのぞき、すべて不作）

（年次比較）

樹種	R02	R01*	H30	H29	H28	H27	H26*	H25	H24	H23	H22*	年次比較
ブナ （高標高域）	凶	凶	不	不	凶	不	凶	並	凶	豊	凶	$H23 > H25 > H27 \geq H29 > H30 > R01$ $\geq H28 > R02 \geq H22 > H24 = H26$
ミズナラ （高標高域）	不	凶	並	不	並	不	不	不	並	並	不	$H30 > H24 = H28 > H23 > H29 > H25$ $> H27 > R02 > H26 \geq H22 \geq R01$
コナラ （低標高域）	不	不	並	並	不	不	不	不	並	並	不	$H30 \geq H29 \geq H24 > H23 > H25 > H28$ $> H26 > H27 \geq H22 \geq R01 > R02$

実り量（作柄）の多い順に、豊：豊作＞並：並作＞不：不作＞凶：凶作

年次比較は、作柄が良い順に記載。 ※ H22、H26、R01 は、秋にクマが大量出没した年

2 夏場の出没状況

- ・今年は、8 月の出没件数（88 件）が、7 月（99 件）同様に非常に多い。
- ・過去の秋の大量出没年は、8 月の出没件数が多い傾向にある。

3 現時点での総合的判断（秋以降の出没予測）

- ・堅果類の作柄が奥山・里山ともに不良であることに加え、夏場の出没数も多かったことから、今年の秋は、クマが餌を求めて集落内に大量出没するおそれがある。
- ・クマの活動が活発化する 9～11 月にかけて、出没情報に注意を払うとともに、集落へクマを引き寄せないよう、集落内の栗や柿の管理、生ゴミや農作物残渣の撤去などの対策が必要である。